



# ウメモト インフォメーション



2020 年 6 月 5 日

担当者: 岩崎

## 大幅減産 1 カ月延長

### サウジとロシア暫定合意

OPEC プラス

【ドバイ＝岐部秀光】 背景だ。石油輸出機構（OPEC）とロシアなど非加盟の主要産油国で構成する「OPECプラス」は近く開く会合で、原油価格の下支えへ実施している大幅な協調減産の延長を協議する。タス通信などによると、OPECの議長サウジアラビアとロシアは4日までに、現行の減産を7月以降、少なくとも1カ月続けることと暫定合意した。

OPECプラスの4月の合意では5、6月に日量970万バレルを減産した後、7月以降は徐々に減産幅を縮小していく計画だった。現在の大幅な減産の維持を協議するのは、新型コロナウイルスの感染拡大で原油需要の回復が遅れていることが

一時1バレル20ドルを下回った北海アレント原油先物は、足元で40ドル前後まで回復した。ただ相場上昇に伴い、損益分岐点を下回っていた米国のシェール企業が原油生産の再開に動いており、供給過剰への懸念は消えていない。

OPECの議長国アルジェリアは9、10日に予定していたOPECプラスの会合を4日に前倒しすることを提案していたが、当日になっても事務局から日程変更の発表はなかった。

イラクなどが協調減産の義務に違反して生産を実施していることにサウジやロシアが反発しており、これが日程にも影響したとの見方が出ている。



## 第19回GSC賞 奨励賞

### コンクリートスラッジを利用した CO<sub>2</sub>リサイクリングと 副生成物の完全活用

日本コンクリート工業 飯塚淳氏  
東北大学 山崎章弘氏  
成蹊大学

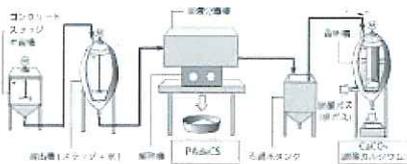
生コン工場やコンクリート二次製品工場では、コンクリートスラッジと呼ばれる未利用資源が世界中で発生し、従来は産業廃棄物として処分されてきた。そのため有効な利用が望まれている。その一方、CO<sub>2</sub>による地球温暖化問題は、世界中の国々が取り組まなければならない課題である。現在、CO<sub>2</sub>を固めている。日本コンクリート工業は、CO<sub>2</sub>を固めてコンクリートスラッジの固定材料として活用することを目的として、MCC&U技術を開発している。MCC&U技術は、CO<sub>2</sub>を固めてコンクリートスラッジの固定材料として活用することを目的として、MCC&U技術を開発している。MCC&U技術は、CO<sub>2</sub>を固めてコンクリートスラッジの固定材料として活用することを目的として、MCC&U技術を開発している。

## 化学総合／市況

### 常温・常圧下で薬品も不使用

温・常圧、薬品類の使用なしに、コンクリートスラッジによるCO<sub>2</sub>削減が可能であることと、さまざまな用途に活用される副生成物（エポキシ樹脂、PAdCS）は多用途機能が存し、その活用が資源循環効果として評価されている。これらの一連の技術をMCC&U（Microbial Carbon Capture and Utilization）と呼ぶ。MCC&U技術は、CO<sub>2</sub>を固めてコンクリートスラッジの固定材料として活用することを目的として、MCC&U技術を開発している。

〔本MCC&U技術の概略図〕



を実現し、建設残土に含有する天然由来のヒ素の除去も可能となっている。後、不溶化を可能とする特定有機質を取り組むことで、建設コストの低減につながる。現在、PAdCSは食品工場の廃棄物として評価でき、普及・資源化の観点から期待されている。また、その出荷量は年々増加傾向にある。エポキシ樹脂もアクリル樹脂工場での使用されている。MCC&U技術は、CO<sub>2</sub>を固めてコンクリートスラッジの固定材料として活用することを目的として、MCC&U技術を開発している。

